



「尚徳」 5月号 第596号 令和4年5月30日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<https://sho.fuzoku.tottori-u.ac.jp/>

題字「尚徳」は、住川英明 地域学部教授 (元校長)



## コミュニケーションはあいさつから

副校長 葉狩 学

GW 期間以降、新型コロナウイルスの新規感染者数が高いレベルで推移しており、感染拡大への警戒から引き続き感染予防対策の徹底を図っているところです。一方、熱中症警報が発令された日もあり、暑さ対策の中で飛沫を意識したメリハリあるマスクの脱着と換気の徹底が一層必要となってきました。

さて、私事ですが、昨年4月に着任以来、児童が登校するほぼ毎朝、正門前で児童生徒の安全な横断支援とあいさつの声掛けをしています。初めは恥ずかしそうにしていた児童生徒でしたが、あいさつを交わす中で少しずつ変化が出てきました。目を見てのあいさつ、自ら進んでのあいさつ、元気な声でのあいさつ、笑顔でのあいさつをする児童生徒が増えてきました。横断歩道を横断する前のわずかな時間ではありますが、毎日児童生徒に接していると、眠そうにしている日、元気がない日、お花を摘んでうれしそうにしている日等々、1日として同じ日は無く、掛ける言葉もその状況に合わせて一言を添えることができるようになりました。また、車で送って来られる保護者もすばらしく、ほとんどの方が車の中から軽く会釈をしてくださり、乗っている児童生徒も同じく車の中から会釈をする姿が増えてきました。最近では児童が横断歩道に近付くと前もって停止線手前で停止して児童の横断を促し、温かく見守ってくださる方が増えてきました。それに応えて横断歩道を渡り終わった後、止まってくださった運転手に会釈をする児童も増えてきました。あいさつの輪が着実に広がっていることを実感している今日この頃です。

では、ここで校内に目を向け、今年度の学校運営について特に意識していることをお話します。学校行事等をできることからできる方法で行い、なるべく元の形に戻しつつもよりよいものにしていこうということです。まだまだ、様々な学習や体験活動に制限がありますが、本校教育の特色ある取組みの継続と継承を図りつつ、コロナ禍の中ならではの取組みを積極的にやりたいと考えています。一例をあげますと、コミュニケーション不足になりがちな学校生活ではありますが、学級で

の話合い活動や委員会活動をより活性化させることで、児童の意思疎通を図りつつ自治的な活動を促しているところです。そして、児童が主体的に考え活動することで楽しさややりがいを実感できる学校生活を目指しています。今年度の児童会目標は「努力で作ろう 活気あふれる附属小」です。具体的な活動の一つに、児童玄関前での運営委員会による朝のあいさつ運動があります。自治的な取組みの種まきをして、芽が出て大きく花開くまでにはまだまだ時間が掛かりますが、コロナ禍の中でも少しずつ活気あふれる附属小学校を児童が実感できるよう取り組んで参ります。

最後になりましたが、コロナ禍の中だからこそ、あいさつをはじめとしたコミュニケーションの大切さを意識しながら、児童同士、保護者同士、学校と家庭がしっかりとつながっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



運営委員会による朝のあいさつ運動



現在、各教員は、今年度の研究テーマ「個別最適な学びが、未来の知への探究心を高める」の下、自身の教科・領域でどのように落とし込み、教科・領域ごとテーマを設定し、そのテーマにせまる仮説や研究の方法など具体的な取組を考えているところです。また、その過程において、鳥取大学の先生などそれぞれの教科・領域で共同研究者としてお世話になっている方々の研究室を訪問するなどして連絡を取り合い、研究の見通しを話し合っています。

6月になると、研究テーマを基にした研究授業を各教員が行っていき、研究を実践的に深めていくこととなります。研究授業の様子など、今後も学校だよりで紹介していきます。

## 学校の様子

4月後半から5月にかけて、多くの行事がありました。コロナ禍の中でのスタートですが、それぞれの行事の行い方を工夫して、感染対策と行事のねらいを両立させて取り組むことを意識しています。

### \*\*\* 学年遠足 \*\*\*

ゴールデンウィークの休日の合間の5月2日（月）に、学年遠足を行いました。例年は、砂の学校として鳥取砂丘を歩くなどの全校遠足を実施していましたが、全校が集まって密になることを避けるとともに、年度当初における学年・学級の仲間づくりを目的にして、今年度は学年遠足という形をとりました。

低学年はグリーンフィールドに行き、それぞれの学年で仲間づくりゲームをして楽しみました。中学年は出合いの森に行き、そこでオリエンテーリングをして、班で協力して問題を解きながら園内を回りました。途中、雨が漸続的に降ってきたので、急遽フラワーガーデンに移動して弁当を食べたり思い思いに遊んだりしました。高学年は桜の園に行き、子供たちが考えたゲームを自分たちで説明し、子供たちの運営により活動しました。この経験が学校を動かす力にもつなげていくことと思います。



### \*\*\* 参観日・学年懇談会 \*\*\*

4月21日をスタートに、各学年の参観日・学年懇談会を日にちを分けて実施しました。

昨年度、一昨年度と、年度当初に担任と保護者の皆様が顔を合わせ、学年、学級運営について懇談をする時間をもつことができませんでした。昨年度はその後、懇話会の学年役員の皆様にお世話になりながら6月、7月に学年懇談会を実施することができました。今年度は新年度が始まるべく早い時期に学年懇談会をもてないものかと考え、今回のような学年ごとに日にちをずらしての参観日・学年懇談会の開催となりました。



保護者と担任とが同じ方向を向いて子供たちを育てていきたいと思います。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

### \*\*\* 小中合同引渡し訓練 \*\*\*

5月13日の小中合同引渡し訓練では、多くの保護者皆様にご協力をいただき、ありがとうございました。お子さんの安全で確実な引渡しをどのように行えばよいのか、特に今回は、中学校のドライブスルー方式、小学校の教室での引渡しがうまく機能するかを検証しました。

今回の訓練について保護者の皆様にはアンケートをお願いしましたが、たくさんの方にご回答をいただきました。それを基によりよい引渡しの方法を再確認していきたいです。

お子さんを引渡しする状況には、今回のように不審者へ対応のほか、地震、大雨、火災など、様々な状況が考えられ、その状況によって、引渡しの仕方、今回のように教室で行うのか、体育館で行うのか、外で行うのか状況に応じて対応が変わってきます。学校では、それぞれの状況に応じた対応をシミュレートしているところです。緊急時となったときには、保護者の皆様にもお世話になりながらお子さんの安全を図っていきたく思いますので、ご理解をよろしくお願いいたします。



## 学校の様子

### \*\*\* 児童会活動 \*\*\*

今年度の委員会活動が発足して、1か月半ほど経ちました。それぞれの委員会で常時活動に取り組み、学校運営に参画している子供たちの姿が見られます。

図書委員会では、休憩時間に図書の貸し出し手続きを行っています。しっかりと仕事をするので、全校児童がたくさん本を借り、読むことができます。また、先日は図書館キャラクターを全校に募集しました。みんなが図書館に親しみ、たくさん本に親しめるように活動しています。

環境委員会では、毎朝玄関や階段の掃除をしています。校舎内のきれいな環境づくりに貢献しているほか、下級生がその姿を見て、高学年としてみんなのために働くことの大切さを感じることもつながり、学校のよい雰囲気を作っていくのではないかと思います。

また、5月25日には、今年度1回目の代表委員会が行われました。この会は運営委員会が運営し、活気あふれる附属小になるために、各クラスでできることを話し合いました。各クラスからいくつかの意見が出されましたが、「あいさつを学校全体でしよう」とまとまりました。今回の話し合いをもとにして、全校であいさつが一杯の附属小を目指して引き続き取り組んでいきます。



### \*\*\* その他の行事 \*\*\*



5月は、体力テストに取り組みました。種目は全部で8つあり、筋力や柔軟性、敏捷性、筋持久力、全身持久力等を測定し、自己の体力を捉えることをねらいとして実施しています。

1年生は初めての体力テストでしたが、6年生にお世話になりながらそれぞれの種目をがんばりました。2年生以上は去年の記録を上回るようにがんばりました。結果は、後日「わたしのけんこう」でお伝えします。

5月16日から27日に教育実習を行いました。今回は鳥取大学の4年生が2回目の実習となる応用実習に取り組みました。教育実習は、本校の校則にも挙げられ、次世代の教師を育てる大切な職務の一つとなっております。

子供たちは実習生さんと多くのかかわりをもちながら2週間を過ごしました。附属小学校の先生とは違う先生との出会い、その先生から学ぶ貴重な経験となったと思います。



## 持ち物への記名のお願い

職員室には、ハンカチ、カーディガン、水筒、冬場には手袋など、校舎内に落ちていたり置き忘れていたりした子供たちの持ち物、いわゆる「落とし物」がよく届きます。落とし物が届くとまず最初に名前が記入してないか探すのですが、残念ながら落とし物の半分以上は無記名です。記名があればすぐに本人のもとに届けることができますが、無記名のものは各学級に回覧したり落とし物入れに入れて子供たちの目に触れるようにしたりして、落とし主を探します。そうすると落とし主が見つかるまでに数日かかることがあり、また全てが本人のもとに戻るのではなく、持ち主が分からないままの物もあります。

それぞれの子供たちにとって大事なものであると考え、本人のもとにきちんと返してあげたいと思いますので、ぜひ持ち物にはすべてに記名をお願いします。